

9月1日の本会議において、福祉教育常任委員会に付託を受けました請願第3号物価上昇に見合う老齢年金等の改善を求める請願について、9月19日に開催した委員会の審査結果を報告します。

請願第3号 物価上昇に見合う老齢年金等の改善を求める請願について、主な質疑は次のとおりです。

納付期間が25年以上で、月平均5.2万円。納付期間が25年未満では月約1.9万円ということですが、この水準の方がどれくらいおられるのかという質疑に対して、全国で10万円未満の年金受給者が約950万人おられますとの答弁でした。

生活保護世帯に移行する高齢者が、近年、急激に増加した推移なのかという質疑に対して、ネットで調べ、結構なカーブで上がってきているという推移は確認しましたが、どのぐらいの割合で上がったかという報告は難しいとの答弁でした。

例えば年金積立金が約200兆円を、約4,000万人に配分するとしたら、1人50万円を1回だけという形になります。配分したいが、財源がないということで、マクロ経済スライドを導入した経過があります。現役世代にかかる負担というところで、高齢者の方と現役世代の方では意見が分かれるかもしれません。全般的な年金システムについての考え方はという質疑に対して、マクロ経済スライドそのものに問題があると私たちは思っています。約200兆円以上の積立金が、株への投資に使用されている状況です。2050年が高齢者のピークと言われているので、取り崩しを計画的にして保険料を引き下げながら改善していくことと併せて、現在、1,000万円以上の高額所得者が限度額62万円と支払いが低い状況、2,000万円程度までは、限度額を139万円に引き上げるという考え方もあります。積立金を全額分配するのではなく、年金の掛け金と年金給付との差額が、毎年黒字です。令和2年度で4,989億円の黒字。令和3年度、5,804億円の黒字になっています。本来、物価が上がれば、年金を上げる、一気に積立金を使い切りたいと言っているのではありませんとの答弁でした。

質疑の後、討論を行いました。反対討論はなく、賛成討論がありました。

直近の物価上昇は3.3ポイントです。マクロ経済スライドによる調整が3年ぶりに発動されたことで、年額、67歳まで2.2%、68歳以上で1.9%の年金増額に留まっていて、実質の年金目減り状態となります。特に、老齢基礎年金だ

けを受け取っている世代では、数百円から2,000円程度の増額世帯が多く、昨今の物価上昇を、乗り切れるような生活は困難です。老齢基礎年金の相次ぐ年金削減により、若い世代の基礎年金への納付意欲がそがれます。年金削減で地方経済は冷え込み、地方財政に深刻な影響を与えます。よって老齢年金等の支給額の改善が必要という請願趣旨に賛成します。

討論の後、採決を行い、賛成多数で、請願第3号 物価上昇に見合う老齢年金等の改善を求める請願について、採択すべきものと決しました。

請願第3号が、本会議最終日で採択をされれば、その後、政府関係機関に送る意見書を福祉教育常任委員会委員長提案として行うことを確認しました。